

ほ場ごとの作業状況や農薬管理が見える化

農家さん：大友農園 大友悠花さん〈上名倉〉

導入機器：ほ場管理システム（クボタ営農支援システムK S A S）

栽培品目：水稻、サクランボ、モモ、リンゴ

〈ポイント〉

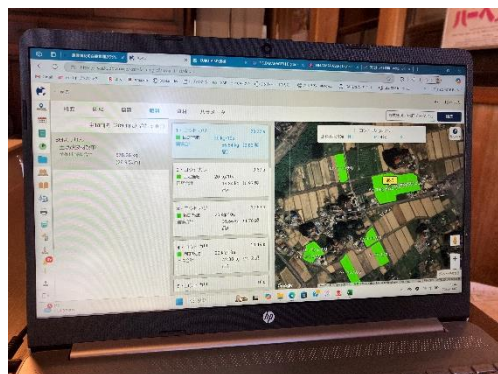
- ＊ほ場約 80 カ所の作業進捗状況が見える化
- ＊日誌をデータ化し、GAP 認証審査の負担減
- ＊水稻の効率化を進め果樹生産とのバランスを図る



ほ場管理システムで、農作業の「見える化」に取り組む大友さん

—導入しているシステムを教えてください。

大友悠花さん 営農支援システムを導入し、市内各地のほ場の場所や作業の進捗を管理しています。水稻と果樹合わせて約 80 のほ場を登録しており、水稻は播種や農薬散布、果樹は防除などの記録をそれぞれ管理しています。



ほ場ごとに施肥量などを入力し記録する

—導入のきっかけは？

大友さん 数年前にトラクターを更新したタイミングで導入しました。ほ場 100 カ所まで無料で登録することができ、システム対応の農機具であれば、稼働状況やメンテナンスなども自動で記録してくれます。

ドローンによる農薬散布を他の方に委託していますが、散布のタイミングを決めるには播種日の把握は不可欠です。家族だけでなく、アルバイトの方に仕事を頼む上でも、ほ場ごとの作業履歴を「見える化」することは大切だと思います。

—メリットは？

大友さん あらゆるデータを一括管理できることです。特にGAPの審査の際に実感しました。GAPの申請書類は多岐に及び、これまでは紙で提出していたので、膨大な資料を管理するのが大変でした。日誌などをシステム管理するようになったことで、必要な情報はほぼシステムに入力してありますから、探す時間も短縮できます。

特に果物は農薬の入出庫が多く、手書きの記録は大変でした。システム上では肥料の数量、在庫も管理でき、今年度必要になりそうな数量を予測する機能もあるので、余分な在庫を持たなくてよかったという効果もあります。

—今後のスマート農業の導入について教えてください。

大友さん ほ場ごとの現場作業ではまだ慣れている紙での記入が多いです。将来的には、アルバイトを含め、全員がアプリでデータ入力する仕組みをつくっていきたいと考えています。

水稻は他の作目に比べ、スマート農業が発達しています。どんどん省力化を進めていきたいです。その点、サクランボの収穫と農薬散布の時期が被ってしまうことが課題だったので、水稻の農薬散布を業務委託し、ドローンでできるようになったのは、大きな一歩です。水稻の作業効率化でできた時間を、農地の保全に充てていきたいと考えています。